



めまい雑感

山口市医師会 金谷 浩一郎

昭和 62 年に長崎大学を卒業した後、山口大学の耳鼻咽喉科教室に入局しました。翌 63 年の日本平衡神経科学会(現在は日本めまい平衡医学会)が山口大学の担当であり、当時は、関谷 透教授のもと、教室全体がめまい一色で熱気にあふれていました。日々予約されている平衡機能検査を行うのが新人の一番重要な仕事でした。

平成 4 年に小野田市立病院に赴任後、印象に残っているめまい症例の 1 例は、結核でストレプトマイシンによる治療中の方でした。ストマイは時に末梢前庭障害をおこしますが、高度に起こった場合、急性期には歩行困難になります。診断は簡単で両側温度眼振反応低下を確認すれば決定です。耳鼻科医にとっては常識といえるめまいです。この方の場合も、両側温度眼振反応ほぼ廃絶を確認し、主治医の先生にご報告したのですが、主治医は不審そうな顔で納得されませんでした。内耳の障害で歩けなくなるのが理解できないといわれるのです。このときに初めて、耳鼻科医の常識は必ずしも他科の先生方の常識ではないのだなと気づかされました。

めまい患者(主訴がめまい単独)の平衡機能検査では、大体、末梢が 5～6 割、中枢が 2 割くらいの割合になります。ところが、平衡機能検査上の中枢所見症例も、頭部の MRI で異常がみられるケースはほとんどありません。当時、小野田市立病院脳神経外科の松永登喜雄先生が、めまい患者の頭部 MRI を一緒に検討してみようと提案されました。1992 年から 1995 年の 4 年間で私が診ためまい患者は 469 例。この内平衡機能検査上中枢所見(+)で頭部 MRI 検査を施行した症例は 113 例。この 113 例中 MRI で異常所見(+)は、小脳梗塞 2 例、聴神経腫瘍 2 例、脳幹腫瘍 1 例の計 5 例でした。結局、MRI での有所

見率は、めまい患者全体の 1%、平衡機能検査上の中枢性めまいの 4% でした。他施設の論文等でも大体同じくらいの割合です。めまいを MRI だけで診断するのは無理という結論でした。

平成 9 年に厚生連長門総合病院に移りました。赴任直後に珍しいめまい症例を診ました。右を向くとめまいがする頭位性めまいです。頭位性めまいの代表は良性発作性頭位めまい症(BPPV)ですが、典型的な BPPV はめまいの持続時間が大体 1 分以内です。ところが、この方は、一旦右を向くと激しいめまいが長時間続くので、過去 4 年間左側臥位でしか寝たことがないといわれます。結局、最終診断は右の第Ⅷ脳神経血管圧迫症候群(VIII NVC)でした。第Ⅷ脳神経が血管に圧迫され、めまいや難聴をおこす病気です。責任血管はいろいろですが、この方の場合、右の椎骨動脈が大きく蛇行し上方に上がり神経を圧迫していました。VIII NVC 自体がそれほど多いものではありませんが、その中でもこれほど画像で明瞭に分かるのは初めて経験しました。VIII NVC については、当時、宇部興産中央病院脳神経外科の岡村知實先生が熱心にこの疾患の治療に取り組んでおられ、この頃、岡村先生からご紹介の VIII NVC 症例の平衡機能検査を何例か行わせていただいたこともありました。

平成 13 年に済生会山口総合病院に赴任後は、数例の重症のメニエール病症例で苦勞しました。詳細は略しますが、メニエール病は心身症であり、治療では患者の心理的社会的背景を考慮しなければならぬということを感じさせられました。これらの方々は、開業した現在もまだ診せていただいております。

今年(平成 24 年)11 月に山口市で行われた第 19 回の頭痛ワークショップという会で、山口

赤十字病院の大堀展平先生が頭痛患者診療の実際という講義をされました。大堀先生は、頭痛の診断はほとんどが問診で決まるので、時間をかけた問診が必要であること、画像検査は不要な場合も多いことを強調しておられました。めまいの診療もこれと全く同じです。ただ、めまい診療と頭痛診療で違う点があるとすれば、めまい診療におい

ては、残念なことです。頭痛診療における国際頭痛分類のような国際的な基準がないということです。めまい診療は時間と労力がかかりすぎ、開業医にとっては少し荷が重い分野ですが、今後も、可能な範囲でめまいを診続けていきたいと思っております。

愛 B リーグ & 400 年の愛

朝晩冷え込んできました。今回は愛を key word にふたつの話題を報告します。

まず愛 B リーグについて。

第 7 回 B-1 グランプリ in 北九州が 10 月 20 ～ 21 日開催された。

安くておいしいご当地グルメでの町おこし活動の日本一を競うイベントである。気に入った出展団体の投票箱に、食べた後の箸を投票し、その結果で優勝、つまりゴールドグランプリが決まるのである。

その前に、B-1 グランプリに出展するには「愛 B リーグ」に入会して実績を積まないといけない。「B 級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会」の通称が「愛 B リーグ」である。

わが出身地の加古川からも今年めでたく B-1 グランプリに初出展との知らせを受け、投票して応援しようと 10 月 21 日(日)に行ってきた。

JR 小倉駅をはさんで海側のシーサイド会場と、反対側の小倉城横のリバーサイド会場に計 63 団体が出展していた。午前 10 時スタートであったが、9 時でも既にあちこちで行列ができていた。

お昼ごろには大混雑で、どの行列なのか判らない所もあった。この秋一番の快晴に恵まれたこともあり、活気と熱気で暑いくらいだった。

まず 100 円券 10 枚つづり一冊 1,000 円のイベントチケットを買い、それをちぎってお目当ての料理と引き換えた。遊園地の乗り物の要領である。1 品目がだいたいチケット 3 ～ 5 枚で食べられた。使いきれなかったチケットは、使用期限はあるものの会場周辺の登録店や観光文化施設でも使えるようになっていた。

私は「うまいでえ！加古川かつめしの会」と「『大曲の納豆汁』旨めもの研究会」に投票した。どちらも今年初出展同士である。

かつめしは名前からすると丼物みたいだが、実際は洋皿で食べるハイカラな洋食である。デミグラスソース味のカツカレーという見た目、夕食のメインにもなる。勝つめし、で縁起も良い。

前日の先発組から「納豆汁がおいしかった」との電話があったので、大曲の納豆汁も味わってみた。日本昔ばなしを思い出させる素朴で温かな味噌汁で、山菜、きのこ、とろけそうな豆腐も入っ

飄

々

広報委員

岸本千種